

伊勢志摩サミット三重県民会議第5回事業推進部会

事項書

日時：平成27年12月15日（火）

14:20～15:00

場所：三重地方自治労働文化センター4階会議室

1. 開会

2. 議題

(1) 150日前広報展開について 【資料1-1、2】

(2) 開催支援 事業

①各国首脳等と県民との交流について【資料2-18】

②宿泊予約センターについて 【資料2-1】

③弁当供給体制の整備について 【資料2-7】

④外国語案内ボランティアについて【資料2-16-2】

⑤住民懇話会の開催について 【資料2-17】

(3) おもてなし 事業

①第2回サミットフォーラムの開催について 【資料2-5】

②クリーンアップ活動（環境美化・清掃活動）について 【資料2-8-1】

③花いっぱいおもてなし運動について 【資料2-8-2】

(4) 明日へつなぐ 事業

①多様な主体における国際理解・国際交流事業について 【資料2-15】

(5) 三重の発信 事業

①公式ポスターの展開について 【資料2-10】

②プレス等を活用した情報発信の展開について 【資料2-12】

③三重県情報館（仮称）について 【資料2-13】

(6) その他

3. 閉会

配布資料

【資料 1-1】 150 日前広報展開について

【資料 1-2】 広報全体計画について

【資料 2-1】 宿泊予約センターについて

【資料 2-2】 配偶者プログラムについて

【資料 2-3】 ジュニアサミットについて

【資料 2-4】 シンボルマークの作成について

【資料 2-5】 第 2 回伊勢志摩サミットフォーラムの開催について

【資料 2-6】 県産食材等の利用促進に向けた取組について

【資料 2-7】 弁当供給体制の整備について

【資料 2-8 - 1】 クリーンアップ活動（環境美化・清掃活動）について

【資料 2-8 - 2】 花いっぱいおもてなし運動について

【資料 2-9】 ホームページ・SNS のリニューアル及び運営について

【資料 2-10】 公式ポスターの展開について

【資料 2-11】 カウントダウンボード・ノベルティを活用した PR 展開について

【資料 2-12】 プレス等を活用した情報発信の展開について

【資料 2-13】 三重県情報館（仮称）について

【資料 2-14】 三重県情報誌及びプレス用ハンドブックの作成について

【資料 2-15】 多様な主体における国際理解・国際交流事業について

【資料 2-16 - 1】 インフォメーション機能の整備について

【資料 2-16 - 2】 外国語案内ボランティアについて

【資料 2-17】 第 1 回住民懇話会の実施結果について

【資料 2-18】 各国首脳等と県民との交流について

平成 27 年 12 月 15 日

事業推進課

伊勢志摩サミット開催 150 日前イベントについて

12 月 28 日（月）は、伊勢志摩サミット開催までちょうど 150 日前となります。伊勢志摩サミット三重県民会議では、節目である 12 月 28 日を中心とする 150 日前ウィークにおいて、首都圏をはじめ、全国的な話題性の向上を図るとともに、県外の皆様にサミット開催に興味を持っていただくため、「三重テラス」でのイベントの開催やカウントダウンボードの県外設置などを実施します。

1 三重テラスでのイベント

首都圏の方に伊勢志摩サミットについて知っていただくため、三重テラスにおいて、一般の方々を対象に、三重県の食を体感いただくイベントと、サミットトークセッションを開催します。

（1）「三重県の誇り！食を欲張り体感！」

- ①日時 平成 27 年 12 月 27 日（日）13 時～16 時
- ②場所 三重テラス 2F スペース（東京都中央区日本橋室町 2-4-1）
- ③内容
 - 1. 大口秀和志摩市長による伊勢まぐろ解体ショー&試食
 - 2. 松阪牛の試食（松阪肉牛共進会優秀賞一席のサミット価格の牛）
 - 3. 三重いちご・マルゴみかんの試食・販売
 - 4. 伊勢茶の試飲・販売
 - 5. その他（鳥羽市産あらめ巻、伊勢市産蓮台寺柿干し柿の試食等）

※参加無料

（2）「伊勢志摩サミット開催 150 日前記念トークセッション」

- ①日時 平成 27 年 12 月 28 日（月）13 時～14 時（開場 12 時）
- ②場所 同上
- ③出席者 堀口 文宏氏（みえの国観光大使）
溝渕 将史氏（外務省大臣官房伊勢志摩サミット・広島外相会合準備事務局総括次長）
鈴木 英敬（伊勢志摩サミット三重県民会議会長（三重県知事））
司会 大西 敬子氏（タレント、三重いちごプロモーションキャラクター）
- ④内容 テーマ「伊勢志摩サミットとは何か、サミット開催で三重県はどう変わる」
※参加無料、事前申込必要（先着 60 名程度）
※来場者には、三重県育種品種の「かおり野」いちごを 2 パックプレゼント。

2 カウントダウンボードの県外設置

200 日前ウィークにて総計 361 台設置したカウントダウンボードについて、さら

に県外設置を進め、東海地区、首都圏を中心とした全国発信へつなげます。新たに50台を各地に設置し、200日前ウィーク以降に応援事業で設置していただいた106台に加えて、総計517台となる予定です。

(1) 県民会議による設置【計5台】

- ・外務省（1台）※三重県森林組合連合会による協賛
- ・鉄道駅構内（近鉄：3台（難波駅、京都駅、名古屋駅））
- ・伊勢市役所（1台）※伊勢市から県立伊勢工業高等学校に製作を依頼

(2) 企業等による応援事業として新たに設置【計45台】

三重交通グループ40台（各バスターミナル出札所等）、中日本高速道路㈱4台（東名阪自動車道御在所SA上下線・伊勢湾岸自動車道長島PA上下線）、㈱津松菱1台を設置いただく予定です。

(3) 開催200日前以降、企業等の応援事業として既に設置【計106台】

㈱第三銀行41台、JAグループ三重61台、三重テレビ放送㈱2台、紀北町観光協会1台、㈱サン・シャイン1台

3 県内市町、各県庁舎での懸垂幕・横断幕の設置

(1) 設置日 平成27年12月28日（月）

※ 当日の天候等により、設置日が個別に変更となる場合があります

(2) 設置期間 設置日から平成28年5月27日まで

(3) 場所 各県庁舎、各市町庁舎 合計40か所

(4) 内容

伊勢志摩サミット開催150日前を契機に、県内市町、各県庁舎へ懸垂幕・横断幕を掲出し、より一層伊勢志摩サミット開催機運の醸成を図ります。

4 公式ポスター第3弾発表

公募した第3弾ポスターの制作発表を12月18日（金）に実施し、開催150日前を機に、順次掲出を開始します。

5 第2回伊勢志摩サミットフォーラム

来年5月に開催する伊勢志摩サミットに向けて、開催機運を醸成するとともに、「おもてなし」、「明日へつなぐ」、「三重の発信」などについて県民の皆さんと考えるため、第2回伊勢志摩サミットフォーラムを開催します。

(1) 日時 平成28年1月16日（土）13時～15時45分

(2) 場所 鈴鹿医療科学大学 白子キャンパス 講堂（鈴鹿市南玉垣町3500-3）

(3) 内容

①講演

「伊勢志摩サミットのレガシー（遺産）を生み出す“おもてなし”戦略とは」

講師：中村好明氏（ドン・キホーテグループ ㈱JIS 代表取締役社長）

②トークセッション

テーマ：「おもてなし、食を中心とした情報発信、サミットのレガシー（遺産）」

スピーカー：山田文比古氏（東京外国語大学教授）、ラース・ニコライゼン氏（ドイツ通信社東京支局長）、清水慎一郎氏（清水清三郎商店株式会社代表取締役）、森川徹氏（外務省大臣官房報道課長）、中村好明氏（株式会社J I S 代表取締役社長）

コーディネーター：鈴木英敬（伊勢志摩サミット三重県民会議会長（三重県知事））

（４）申込受付中（締切日１２月１６日）

6 市町・県と連携した広報

市町や県各部局が主催するイベント等でポスターやのぼり等を掲示することによりサミットのPRを行います。

■市町イベント（ポスター・のぼり掲示等）

年月日	行事名	場所	担当
H27.12.13（～2月頃まで）	イルミネーションライトアップ	五ヶ所児童公園	南伊勢町総務課
H27.12.19-28	三重紀北町年末きいながしま港市	紀北町長島港内特設会場	年末きいながしま港市実行委員会
H27.12.19	北勢線サンタ電車	三岐鉄道北勢線電車車内および西桑名駅ホーム	桑名市都市整備課
H27.12.19	すわ公園から光の贈りもの・イルミカフェ	すわ公園交流館	四日市市商業勤労課
H27.12.20	1000000人のキャンドルナイト in すわ公園	諏訪公園	四日市市商業勤労課
H27.12.20	第10回タキスポ ジョギング&マラソン大会	天啓公園	多気町スポーツ協会
H27.12.20	松阪市子ども・子育てフォーラム～子どもと家庭を地域で支え、はぐくむまち・松阪～	農業屋コミュニティ文化センター	松阪市福祉事務所 こども未来課
H27.12.27	第6回おいしいまち南伊勢町歳末物産市	南伊勢町町民文化会館～役場の路上	南伊勢町観光商工課

■県各部署イベント（ポスター・のぼり掲示等）

年月日	行事名	場所	担当課
H27. 12. 13	三重の魚×京野菜の宴（仮称）	京都市むすび食堂	農林水産部水産資源課
H27. 12. 11-24	第 103 回日本列島心のふるさと 観光展	曽根崎地下歩道「み ちまちスクエア」（大 阪市北区梅田）	雇用経済部 関西事務所
H27. 12. 13	伊勢茶～手もみ茶づくりを体験 しよう～	まちライブラリー@ 大阪府立大学	雇用経済部 関西事務所
H27. 12. 19	第 3 回 COOL MIE トークライブ 2015	三重テラス	雇用経済部三重県営 業本部担当課
H27. 12. 14-26	第 27 回姫路グランフェスタ観光 展	J R 姫路駅前地下街 グランフェスタ 6 番 街	雇用経済部 関西事務所
H27. 12. 19-20	平成 27 年度三重県障がい者芸術 文化祭	伊勢市生涯学習セン ターいせトピア	健康福祉部 障がい福祉課
H27. 12. 20	「宮城県×広島県×三重県」 牡蠣競演イベント	東京交通会館 1F ピロティ	農林水産部 水産資源課
H27. 12. 20	平成 27 年度こどもの事故防止講 演会	三重県医師会館	健康福祉部こども・家 庭局子育て支援課
H27. 12. 22	平成 27 年度三重県栄養改善大会 みえの食フォーラム	三重県総合文化 センター	健康福祉部医療対策 局健康づくり課
H27. 12. 27	夢迫人 吉田沙保里大賞 表彰式	津市芸濃総合文化セ ンター	地域連携部スポーツ 推進局スポーツ推進 課

※上記に加え、調整中のイベントや節目期間外にサミットPRにご協力いただくイベントも多数あります。

7 応援事業等との連携

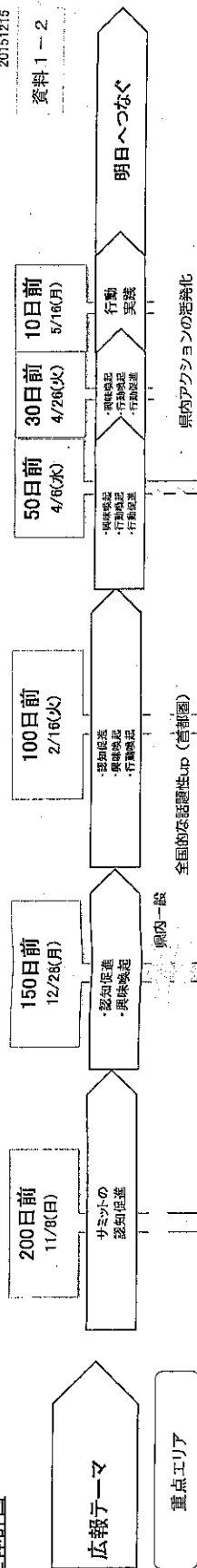
年月日	行事名	場所	主催
H27. 12. 19-28	三重紀北町年末きいながしま 港市での出展（27 日のみ）	紀北町長島港内特 設会場	年末きいながしま港 市実行委員会

※加えて、年末きいながしま港市実行委員会による応援事業として「年末きいながしま港市」で伊勢志摩サミット開催 150 日前のPRと各ブースでのサミット記念商品の販売を通じ、サミットPRを行っていただきます。

8 関係閣僚会合開催の自治体との相互PR

関係閣僚会合開催の自治体と連携を図り、PRポスターの交換掲出などを順次行い、効果的な全国発信へとつなげるよう調整を行います。

伊勢志摩サミット開催に向けた広報全体計画

[illegible]

平成 27 年 12 月 15 日

開催支援課

伊勢志摩サミット宿泊予約センターについて

1 目的

サミット開催時に集中的に来県する関係者の宿泊先を、安定的かつ効率的に確保・提供するとともに、宿泊者及び宿泊施設に対する適切なサポートや三重県の観光振興につながる取組を行う。

2 取組内容

(1) センターの役割

伊勢志摩サミット三重県民会議が公認する宿泊予約センターとして、サミット開催時に集中的に来県する関係者に対し、宿泊先となるホテル等を安定的かつ効率的に確保し、宿泊希望者への円滑かつ適切な申込み、配宿、精算、情報提供などのサービスを一元的に提供するとともに、宿泊施設に対するサミット関係者受け入れにあたってのサポートや三重県の観光振興に係る取組などを行う。

(2) 宿泊予約取扱対象者

各国代表団、報道関係者、日本政府関係者、警備関係者、消防関係者、医療関係者等

(3) センター概要

- ①開設日 平成 27 年 8 月 24 日 (月)
- ②運営事業者 伊勢志摩サミットに係る宿泊手配等業務コンソーシアム
※株式会社 JTB 中部 (代表)、近畿日本ツーリスト株式会社、
株式会社日本旅行の 3 社による共同事業体
- ③住 所 三重県津市羽所町 375 百五・明治安田ビル 5 階
- ④電話番号 059-228-8450
- ⑤営業時間 平日 9 時 30 分から 17 時 30 分まで (土日祝は休業)

(4) 宿泊施設確保状況

3 月 24 日から 5 月 29 日までを 5 つの期間に分けて、それぞれの期間に必要なと想定される客室を確保できるよう、伊勢志摩地域の全宿泊施設、及び津・亀山・鈴鹿以南のビジネスホテル (洋室) を主な対象に取り組んでいました。

現時点で、最大 2 万 5 千人の宿泊を想定するサミット開催前後 (5 月 24 日から 29 日) の期間以外は必要な客室数を確保できていますが、開催前後の期間については、より一層の客室確保が必要な状況であり、現在、対象地域を拡げつつ、首脳会議場・国際メディアセンター周辺の施設及び洋室のある施設を中心に必要な客室の確保に努めています。

7 月には、宿泊対象と想定されうる施設に対し、当面の間、ゴールデンウィーク明けからサミット開催までの期間の宿泊予約を受付ないよう協力を依頼しましたが、この依頼は 10 月 16 日に解除しました。また宿泊予約センターによる配宿への協力申し出があった客室についても、使用見込みのない期間・地域の客室については、11 月 10 日以降、順次、各施設への返還作業を始めて

います。

なおゴールデンウィーク期間中までは、宿泊予約センターがサミット関係者に確保している客室もそれほど多くなく、センターの確保分以外は各宿泊施設が通常通りの営業を行っていますので、一般観光客の利用について特別な制限はありません。

3 事業実施スケジュール（予定）

- ・ 8月31日～9月7日 宿泊施設向け説明会の開催
(伊勢市、志摩市、鳥羽市、津市で計10回)
- ・ 9月～ 必要な客室数の確保
- ・ 10月～ センター新事務所開設、宿泊希望者からの問合せ対応・調整
- ・ 11月～ 確保済み客室の内、使用見込みのない客室の返還（随時）
- ・ 12月～ 宿泊予約センターホームページの立ち上げ
- ・ 1月～ ホームページでの宿泊予約受付開始
宿泊施設に対する配宿計画案の提示
- ・ 2～4月 宿泊施設向け外国人おもてなしセミナーの開催

平成27年12月15日
開催支援課

配偶者プログラムについて

1 目的

国に対し配偶者プログラムの訪問先や体験内容等についての提案を行うことで、美しい自然や豊かな文化・伝統などの三重の魅力をプログラムに盛り込み、三重の魅力を世界に向けて発信していく。

2 取組方針

- (1) 国が行う配偶者プログラムに、三重県としての提案を盛り込んでもらう。
- (2) 首脳会議が1泊2日で予定されており、配偶者プログラムもその期間内での実施となる（想定：5月26日午後、27日午前）。ただし、日程を勘案するとそれぞれ半日程度の行程となり、賢島から遠距離への訪問はできない。

3 取組状況

テーマ性やストーリー性を持たせた訪問先やコンテンツを総合的に検討のうえ、県としての案を決定し、10月9日（金）に、知事から外務省に対し、提案を行った。

- ・テーマ：「伊勢志摩にみる日本の伝統・文化」
- ・キーワード：「多様性」「持続性」「独創性」「女性」「食」

4 今後の進め方

三重県提案の採用を検討段階の外務省に改めて働きかける。検討に際し、具体化が必要な内容に関しては調整のうえ、情報提供を行っていく。

国が配偶者プログラムの訪問先等を決定した後は、県民会議の担当となる行程について、県民会議としてコンテンツを具体的に検討し実施する。

平成 27 年 12 月 15 日

事業推進課

ジュニアサミットについて

1 目的

ジュニアサミット参加者が三重県の魅力に触れるとともに、三重県の子ども達に交流機会を提供します。

2 これまでの経緯

8 月 5 日 鈴木知事から中山泰秀外務副大臣に本県開催を強く要望

9 月 17 日 伊勢志摩サミット推進局長から外務省大臣官房人物交流室長に、開催日程（案）や討議テーマ及び討議に資する視察先を提案

10 月 27 日 外務省飯倉公館で開催された「伊勢志摩サミット開催レセプション」にて、岸田文雄外務大臣がジュニアサミットの三重県開催を発表

【開催時期】 平成 28 年 4 月 22 日から

【開催場所】 三重県桑名市を主会場とし、県内各地で視察、交流イベントを行う形で開催

11 月 17 日 ジュニア・サミットに参加する日本代表を募集（～12 月 7 日）

3 事業の概要

(1) 開催内容について

平成 27 年 11 月 11 日、外務省からジュニアサミットの参加募集要領が示され、下記の内容で開催されることとなりました。

- ・名称：「2016 年ジュニア・サミット in 三重」
- ・開催期間（予定）：平成 28 年 4 月 22 日から 28 日まで
(4 月 21 日会場入り、4 月 29 日東京出発)
- ・主催：日本国外務省、共催：伊勢志摩サミット三重県民会議
- ・会議（討議）テーマ（案）：「次世代につなぐ地球～環境と持続可能な社会」
- ・参加者：G7 各国の原則として 15 歳～18 歳の 4 名のチーム（男性 2 名、女性 2 名）及び付添人 1 名
- ・使用言語：英語
- ・プログラム（暫定）
 - 4 月 21 日（木）桑名市到着
 - 4 月 22 日（金）開会式、会議
 - 4 月 23 日（土）会議、視察
 - 4 月 24 日（日）交流行事
 - 4 月 25 日（月）会議
 - 4 月 26 日（火）会議、閉会式、東京に移動
 - 4 月 27 日（水）政府首脳に成果文書提出（27 日又は 28 日）、都内視察
 - 4 月 28 日（木）同上
 - 4 月 29 日（金）東京出発

(2) 日本代表チームの選考について

日本代表チームについて、三重県内から4名（男性2名、女性2名）及び付添人1名を平成28年2月29日までに選考するよう外務省から通知があり、三重県教育委員会及び環境生活部私学課に選考を依頼し、次のとおり募集を行いました。

【応募資格】

- (1) 日本国籍を有していること。
- (2) 原則として平成28年4月22日現在で15歳～18歳であること。
- (3) 三重県内に在住している者、または三重県内に通勤・通学等をしている者
- (4) 国際交流や国際問題について関心があること。
- (5) 心身ともに健康であること。
- (6) 次の検定試験のいずれかの基準に相当する英語力を有し、意思疎通能力が充分にあるもの
 - ア 英検 準1級以上
 - イ TOEFLiBT 72点以上
 - ウ IELTS 5.5以上
 - エ TOEIC 785点以上
- (7) 選考会、「2016年ジュニア・サミットin三重」の全日程及び事前研修（平成28年1月から平成28年4月までの期間で、のべ7回程度、土日祝日に実施を予定）に出席可能な者
- (8) 参加について親権者の同意が得られること

【募集期間】

平成27年11月17日（火）～12月7日（月）17時まで

4 今後の取組方針

- (1) 日本代表について、平成27年12月19日、選考会を開催し、書類審査、面接審査及び口述審査を行い、すべての審査から総合的に判断して選考するとともに、開催に向けて事前研修を行います。
- (2) 三重県ならではの歓迎・交流行事や、県内高校生等との交流を含む県内各地分散型の体験・交流の具体的なプランについて、改めて国に提案を行います。（県内各市町に対し、国に提案するためのコンテンツを照会済）
- (3) 開催日程を通して、県内高校生等が参加者と交流できる機会を可能な限り設けられるよう、外務省と協議します。
- (4) 開催に向け、参加者の歓迎や受け入れ等について、主会場となる桑名市をはじめ、北勢地域の市町や県内の関係者と緊密な連携を図っていきます。

平成 27 年 12 月 15 日
事業推進課

シンボルマークの作成について

1 目的

国によるロゴマークの決定は平成 28 年 1 月以降と見込まれています。

国の決定に先んじて、県民会議や県民会議の活動に賛同する多くの県民ができるだけ早期に、かつ自由に使用できる県民会議としてのシンボルマークを独自に作成し、広報活動に活用することで開催機運の醸成を図ります。

また、選定の考え方自体を県民会議の活動方針の象徴とし、県内外に強いメッセージを伝えていきます。

2 作成方法

(1) 作成方針

シンボルマーク作成のプロセス自体に県民会議からのメッセージを込め、県内外に発信しました。

① 近藤敦也氏に作成を依頼（平成 27 年 8 月 21 日）

近藤氏は北勢きらら学園在校時の作品が平成 20 年の北海道洞爺湖サミットのロゴマーク公募で最優秀作として採用され、その後、筋ジストロフィーという難病を抱えながらも、夢であったグラフィックデザインの仕事に従事され、現在に至るまで継続的にデザインに関わっておられます。

同氏にシンボルマークを作成いただくことで、北海道洞爺湖サミットの経験を伊勢志摩サミットの成功と三重県の明日へつないでいく、また、多様な主体に参画いただくことを、県民会議からの強いメッセージとして発信します。

② シンボルマークの県民投票（平成 27 年 9 月 25 日～10 月 1 日）

県民会議の基本的な考え方である「さまざまな県民が準備段階から事業の企画に携わり、実施して、サミットに参画する」ということを実現するため、近藤氏に作成いただくシンボルマーク数案を、県民投票へかける機会を設けました。

※ 投票総数 3, 577 票

③ シンボルマークの県民会議会長、副会長、理事による投票

（平成 27 年 10 月 2 日～10 月 5 日）

県民投票の結果、上位 2 案に対して県民会議会長、副会長、理事による最終投票を実施しました。

④ シンボルマークの決定（平成 27 年 10 月 13 日）

3 作成後の展開

(1) 県民会議としての展開

バッジ、名刺、広報用資料、ポスター、封筒、懸垂幕等幅広く展開します。

(2) 協賛事業としての展開

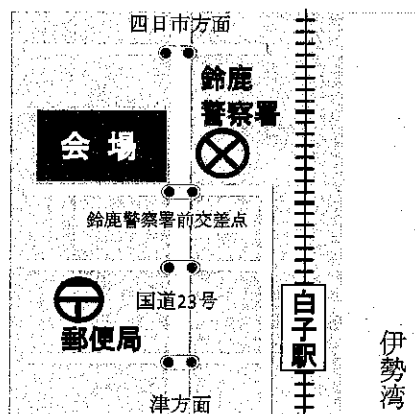
県内外の企業・団体・個人による応援事業や企業・団体からの協賛の枠組みを活用してシンボルマークを活用頂くことで、広く展開します。



伊勢志摩サミット
三重県民会議

第2回 伊勢志摩サミットフォーラム

おもてなしや食を中心とした情報発信など、サミット開催に向けた県民総参加の取り組みと、サミットのレガシー（遺産）として後世に残すべきことについて、一緒に考えましょう。



【日時】 平成28年1月16日(土)13:00開演／12:00開場

【場所】 鈴鹿医療科学大学 白子キャンパス 講堂

(鈴鹿市南玉垣町3500-3)

近鉄白子駅からバス5分

※白子駅からシャトルバスが運行します。

【内容】 13:00～13:10 挨拶(会長・鈴鹿市長)

13:10～13:50 講演

14:00～15:45 トークセッション

定員600名
事前申込制
入場無料

<講演> 「伊勢志摩サミットのレガシーを生み出す “おもてなし” 戦略とは」

なかむら よしあき

講師 中村好明 氏

ドン・キホーテグループ

株式会社JIS 代表取締役社長

株式会社ドン・キホーテに入社後、広報・IR・マーケティングの責任者、各種社内新規事業のプロジェクトリーダーを経て、2008年インバウンドプロジェクトの責任者に就任。2013年に株式会社JISを設立、社長に就任。国、自治体、民間企業のインバウンド分野における総合コンサルティング事業等に従事。



<トークセッション> 「おもてなし、食を中心とした情報発信、 サミットのレガシー（遺産）について」

○スピーカー



やまだ ふみひこ

山田文比古 氏

東京外国語大学教授。元フランス大使館公使。2000年九州・沖縄サミットでは、沖縄県サミット推進事務局長としてサミットを成功に導いた。



しみずしんいちろう

清水慎一郎 氏

清水清三郎商店代表取締役。国内外のコンテストで受賞多数。鈴鹿の工芸品とのコラボ商品を通じ、幅広く鈴鹿をアピール。三重県酒造組合副会長。



ラース・ニコライゼン氏

ドイツ通信社東京支局長。1997年から現職。巧みな日本語を使い、全国で取材を実施。2008年北海道洞爺湖サミットを取材。

なかむらよしあき

中村好明 氏

講演に引き続き、トークセッションにも出演します。

未定

(外務省)

第1回フォーラムに続いて、外務省から出演します。

○コーディネーター 鈴木英敬伊勢志摩サミット三重県民会議会長（三重県知事）

※中止又は延期の場合は、ホームページで発表します。詳しくは、こちらで検索！

伊勢志摩サミット・三重県

検索

応募方法

① ホームページ内の応募専用フォームによる申し込み

② 必要事項を記入の上、ファックスによる申し込み

※詳しくは、裏面をご覧ください。 応募締切 12月16日(水)

主催／伊勢志摩サミット三重県民会議

第2回伊勢志摩サミットフォーラム 参加申込用紙

参加をご希望される方は、次のいずれかの方法によりお申し込みください。

申込受付期間 平成27年11月12日(木)～12月16日(水)

①ホームページから申し込む・・・次のURLから申し込んでください。

パソコン <http://www.shinsei.pref.mie.lg.jp/uketsuke2/dform.do?acs=sf2>

携帯電話 <http://www.shinsei.pref.mie.lg.jp/uketsuke2/iform.do?acs=sf2>

スマートフォン <http://www.shinsei.pref.mie.lg.jp/uketsuke2/sform.do?acs=sf2>

②ファックスから申し込む・・・下記をご記入の上、ファックスしてください。

ファックス番号 059-253-5498

※駐車場に限りがございますので、可能な限り公共交通機関をご利用ください。

申込お一人につき、申込用紙1枚に記入して、お申し込みください。

■申込者

住所*	〒		
ふりがな*	氏名	電話番号*	() -
メールアドレス		FAX番号	
団体・法人名		役職・部署名	

ご記入いただいた個人情報は、このイベントに関してのみ使用し、それ以外の目的で使用いたしません。
※欄は必ずご記入ください。メールアドレス、FAX番号、団体・法人名、役職・部署名は、任意記入です。

■来場手段

来場手段	車 ・ その他	※他の方の車に同乗して来場される場合は、その他に○をしてください。
------	---------	-----------------------------------

■乳幼児保育サービス(託児)の申し込み

託児申し込み	有 ・ 無		
氏名(ふりがな)		月齢・年齢	
氏名(ふりがな)		月齢・年齢	

■手話通訳の申し込み

手話通訳申し込み	有 ・ 無
----------	-------

■車いす席の申し込み

車いす席申し込み	有 ・ 無
----------	-------

<申し込み・お問い合わせ先>

伊勢志摩サミット三重県民会議事務局

津市栄町2-380HOWAビル津4F

電話 059-253-5496

FAX 059-253-5498

平成 27 年 12 月 15 日

開催支援課

県産食材等の利用促進に向けた取組について

1 目的

伊勢志摩サミット開催を契機とし、質の高い県産食材等の P R を行うことで、需要拡大及び販売促進につなげていく。

2 基本的な考え方

全県をあげて、質の高い県産食材等をリストアップし、サミットにおける国の公式プログラムやレセプション等のほか、プレスツアー等の行事の食事メニューにおいて採用されるよう、県産食材等の活用を国や関係ホテル等に対して積極的に提案していく。

3 取組状況

10 月 9 日（金）に、知事から外務省に対し、積極的に県産食材等を活用されるよう以下のリストを提出し要望を行った。

- ・食 材：各市町から提出された推薦食材を集約してリストを作成。
- ・加工品：県内に主たる事業所がある事業者が製造又は加工した食品や、江戸時代以前から県内で製造・販売されている餅菓子について公募を行い、みえセレクション選定品を含め、審査会を経てリストを作成。
- ・日本酒：関係機関と調整のうえ、全国新酒鑑評会で受賞された日本酒をはじめ、三重県に存する蔵元が奨める日本酒をとりまとめリストを作成。

外務省への要望後は、ホテル・旅館への提案活動を実施している。

※志摩市、鳥羽市のホテルを中心に雇用経済部、農林水産部と協同し、上記のリストを持参しての提案活動を実施中。

同時に、12 月 1 日（火）に、農林水産部が主催する「三重の食材を知る会 VOL. 1」（開催場所：伊勢安土桃山文化村）への参加も呼び掛け、活用の推進を促した

この他に、警備関係者等を対象とする弁当供給業務においても、供給事業者に対し、県産米の使用と県産食材の積極的活用を求めている。

4 今後の進め方

各国の宿泊ホテル決定後に、第 2 回の提案活動を予定しており、積極的な採用を提案していく。

平成 27 年 12 月 15 日

開催支援課

弁当供給体制の整備について

1 目的

伊勢志摩サミットの開催に際して、警備、消防、医療、現地スタッフ等に対し、県産食材を活用した安全・安心かつ美味しい食事を大量に継続して提供することを目的とする。

2 取組内容

(1) 業務内容

弁当の受注、製造、配送及び空容器の回収

(2) 取扱対象者

警備関係者、消防関係者、医療関係者、現地スタッフ等を想定

(3) 整備する供給体制

- ①屋外保管を前提とする大規模かつ継続的な弁当需要（以下、大規模需要）への対応
- ②屋内保管を前提とする比較的小規模かつ短期・不定期的な弁当需要（以下、小規模需要）への対応

3 大規模需要への対応について

(1) 弁当供給に係る想定

弁当の供給について、現時点での「発注数の推移」「配送先への弁当到着時間」「配送先」の想定は、別添のとおりであり、この想定を満たす体制を整備できるよう、企画提案コンペを実施し、業務実施事業者を選定する。

(2) 事業者選定に係る最重要方針

万全の食品衛生管理体制が確保できることを最重要方針とし、弁当の製造過程において、HACCP及び大量調理施設衛生管理マニュアルに基づく衛生管理を実施するとともに、提供する弁当について、屋外で保管されることを想定し、三重県が定める食品の衛生管理指標の目標値の達成及び異物混入対策として金属探知機での検査を求めることとする。

(3) 検査指導体制

万全の食品衛生管理体制を確保するため、県内の弁当製造施設については、月 2 回程度の監視指導を実施することとする。

(4) 県内事業者の参画

事業者選定にあたっては、仕様書に、県内弁当製造事業者を一社以上含めることを参加資格にするとともに、配送事業者等についても可能な限り県内事業者を多く参画させるよう規定し、その参画度合を選定の評価基準の一つとすることで、県内事業者の参画を確保する。

ただし、弁当製造施設数については、十分な検査指導体制を確保できることが前提となる。

【地区割りについて】

弁当の配送場所を、比較的規模の大きな「志摩市」及び規模の小さな「津市・伊勢市・鳥羽市」の2地区に分けて、企画提案コンペを実施することにより、十分な検査指導体制を確保しつつ、県内事業者の活用をより促進する。

(5) 県産食材の活用

県産米を使用するとともに、その他の県産食材についても、可能な限り使用に努めるよう企画提案コンペの仕様書に規定する。

また、フードイノベーション課と連携して県民会議の方から食材及びメニューの提案を行うことで、企画提案の内容に止めることなく、県産食材の活用促進に努める。

(6) 企画提案コンペの審査基準

- ① 業務遂行能力に関する事項
- ② 衛生管理に関する事項
- ③ 食材及びメニューに関する事項
- ④ 環境への配慮に関する事項

(7) 弁当受注窓口設置までのスケジュール

平成27年10月30日	企画提案コンペ	公募開始
11月10日	企画提案コンペ	説明会開催 (参加者 約30名)
11月30日	企画提案コンペ	公募締切 (提案事業者数 2地区共通で5者)
12月10日	プレゼンテーション・ヒアリング審査	受託候補者決定(2者)

※現在、食品衛生状況を確認するとともに、業務内容を協議しています。

平成28年 1月	事業者名公表、協定書締結 弁当受注窓口設置
----------	--------------------------

4 小規模需要への対応について

宿泊者の昼食需要への対応など食事の提供に課題のある宿泊施設や、国際メディアセンター内の支援事業者、海上保安庁職員の一部など、屋内保管が可能で、比較的小規模かつ短期・不定期な弁当需要に対しては、地元の小規模な弁当製造事業者による供給が行えるよう、各地域の商工団体等とも協力しながら、両者のマッチングを促進する。

伊勢志摩サミット弁当供給業務（大規模需要）に係る想定

1 発注数の推移

期間	1日1食の弁当見込数			備考
	朝	昼	夕	
3/24～4/21	300個	900個	300個	
4/22～5/9	2,200個	6,600個	2,200個	
5/10～5/18	3,300個	10,000個	3,300個	
5/19～5/28	5,000個	16,000個	5,000個	

2 配送先への弁当到着時間

朝	午前4時から午前5時
昼	午前9時から午前10時
夜	午後3時から午後4時

3 配送先

市名	箇所数	場所
志摩市	数か所	(未定)
伊勢市	1～数か所	(未定)
鳥羽市	1～数か所	(未定)
津市等	1～数か所	(未定)

<参考>

企画提案コンペでは、「5月26日（木）の配送場所別配送弁当数」を下記のように条件として設定し、企画提案をしていただきました。

【A地区】

市名	配送場所	朝食	昼食	夜食
志摩市	志摩市役所本庁舎	1,000個	4,000個	1,000個
	志摩市役所磯部支所	1,000個	3,000個	1,000個
	志摩市役所浜島支所	1,000個	3,000個	1,000個
	志摩市役所大王支所	1,000個	3,000個	1,000個
合 計		4,000個	13,000個	4,000個

【B地区】

配送地区	配送場所	朝食	昼食	夜食
伊勢市	伊勢市役所	400個	1,000個	400個
鳥羽市	鳥羽市役所	300個	1,000個	300個
津市等	津市役所	300個	1,000個	300個
合 計		1,000個	3,000個	1,000個

注意：あくまでも企画提案をするための仮定の配送場所・配送弁当数です。

平成 27 年 12 月 15 日
事業推進課

クリーンアップ活動について

1 目的

サミット開催にあたっては、各国関係者はもとより、多くの報道関係者等が県内に訪れると予想される。

これらの来訪者に、より快適な滞在環境を提供し、県民の歓迎の意を表現するとともに、一人でも多くの県民が来訪者歓迎に関わることにより、機運醸成や参加意識の向上をめざす。

2 事業概要

県民会議や県、市町及び各団体・企業等の多様な取組を活かしながら、県民が一体となって、開催地周辺のみならず全県的に協賛、応援事業の枠組も活用してクリーンアップ活動を展開する。

3 取組方針

- (1) 市町や自治会、関係団体・企業の実施しているクリーンアップ活動等を活かし、全県的な取組として展開する。
- (2) 県民参加の機運醸成のため、キックオフイベント等を実施することで一体感と発信力を高めていく

4 今後の進め方

(1) 既存の活動の活用

一人でも多くの県民の方々に参加していただけるよう、市町や関係団体等と協力しながら既存の活動を活用し、全県的な県民運動として展開する。

(2) 協賛、応援事業の活用

協賛、応援事業の枠組みを活用し、企業、団体が自ら行うクリーンアップ活動や物品等の提供により、企業・団体の協力を活用していく。

(3) キックオフイベントの開催

県民一人一人がおもてなしの心を持ってクリーンアップ活動を県全体で取り組んでゆくことをPRするとともに、サミットに向けた機運の醸成や一体感の構築を図るため、サミット開催 100 日前イベントとして「伊勢志摩サミットクリーンアップおもてなし大作戦（仮）」のキックオフイベントを開催する。

①開催日

100 日前ウィーク（平成 28 年 2 月 16 日（火））前後を予定

②開催場所

メインイベント・清掃活動を開催予定（開催市町については調整中）。

他市町においても自主的なイベント・清掃活動を開催することにより、県内全域にクリーンアップムーブメントを創出させるきっかけとする。

③参加者

県民、学生、市町、自治会、各種活動団体（NPO、ボランティア、サークル等）、企業等

（４）県内一斉美化活動期間

平成 28 年 5 月を中心に「県内一斉美化活動期間」とし、各市町、団体等で実施している既存の清掃活動の前倒し等を要請し全県的に実施する。

（５）花いっぱいおもてなし運動との一体的な実施

環境美化活動の一環として実施する「伊勢志摩サミット花いっぱいおもてなし大作戦（仮称）」と一体的に実施することで、サミットに係る機運の醸成や参加意識の向上をめざす。

平成 27 年 12 月 15 日
事業推進課

花いっぱいおもてなし運動について

1 目的

伊勢志摩サミットの開催にあたり、三重県を訪れる方々を、おもてなしの心と美しい花々で歓迎するとともに、一人でも多くの県民が花を育てる活動に参加することでサミットに向けた機運を醸成するため「花いっぱいおもてなし運動」の取組を実施する。

2 事業概要

広報全体計画に基づき、サミット開催に向けての具体的なアクションの時期である「50日前ウィーク」（4月6日を中心）から、サミット本番前に、県内一斉に花の飾り付けなど行うキックオフイベントを開催し、歓迎機運や参加意識の向上をはかる。

4月からのアクションに向けて、県、市町、団体、企業、個人等のそれぞれの特性やこれまでの取組を生かし、地域に根ざした活動を全県的に展開する。

3 取組方針

- (1) 一人でも多くの県民の方々に参加していただけるよう、市町や関係団体等と協力しながら既存の活動を集約するとともに、クリーンアップ活動とも連動して全県的な県民運動として展開する。
- (2) 展開にあたっては、県内の関係団体や企業等の協賛、応援なども得て苗や資材等を準備するなど、各段階において多様な主体が支える運動とする。
- (3) 「県民のアクションの時期」と位置づけた50日前ウィークには、サミット本番前にキックオフイベントを開催し、サミットの成功と歓迎機運を盛り上げるとともに、参加意識を高める。

4 今後の進め方

(1) 各主体の活動の集約

各種活動団体（NPO、ボランティア、サークル等）、個人、学校、市町、自治会、生産者、企業等多様な主体が、播種・育苗・定植・栽培管理・開花・飾花までの各段階の活動を、それぞれの特性に応じて担い、「伊勢志摩サミット花いっぱいおもてなし大作戦（仮称）」として集約することで、4月から5月下旬までの開花・飾花をめざして活動する。

①播種・育苗：種を蒔いて花苗まで育成。

②定植：場所を選定し、定植作業。

※道路（街路樹柵）、公園、駅前ロータリー、県・市町庁舎等の公共施設、駅構内、宿泊施設、遊園地・テーマパークなどを想定

※場所の選定にあたっては、清掃活動を行った場所に定植するなどクリーンアップ活動とも連動させていく。

③栽培管理・開花：水やり管理、雑草除去等。

④飾花：移植等による飾花。

(2) 各主体の参加形態の例

①県民会議は、「伊勢志摩サミット花いっぱいおもてなし大作戦（仮称）」として各主体の参加を呼びかけ、協賛、応援事業等を活用して各主体の活動をバックアップするとともに、予算の範囲内で花苗、資材等を準備する。

②市町は、庁舎や関係施設の飾花で参加するとともに、既存事業も活用して管内の各主体の活動をバックアップする。

③各主体は、上記４（１）①～④の各段階に応じて参加を表明し、自主的に活動に参加。

④育苗から飾花まで、一貫した技術やノウハウ、施設・設備等を有する専門家等は、施設や技術、ノウハウ等を他の参加者に提供することで花いっぱい運動のネットワーク化を図る。

⑤企業、団体等は、協賛事業として関係施設での飾花で活動に参加するとともに、物品、技術等を協賛することでも活動に参加。

（例）サミット開催の影響で注目される場所、人が集まりやすい場所での飾り付け（宿泊施設、商業施設、電車駅構内、高速道路ＳＡ・ＰＡ、フェリー乗場等）や、種、苗、用土、資材、栽培施設の貸与、栽培管理、技術・ノウハウ等の提供等

（３）スケジュール

①参加募集（１２月上旬～１２月下旬）

県民会議は、広く「伊勢志摩サミット花いっぱいおもてなし大作戦（仮称）」への参加を呼び掛けるとともに、企業・団体等に花苗・資材等の協賛を募集する。

②植花場所の集約（１２月上旬～１月中旬）

県民会議は、参加状況と協賛物品（花苗・資材等）を集約し、各参加者の栽培予定面積や活動状況に応じて配分計画を作成する。

③クリーンアップ活動との連動（２月中旬）

各団体は、１００日前ウィーク（２月１６日前後）に予定されているクリーンアップ活動キックオフイベント及び５月１５日前後に予定されている「県内一斉美化活動期間」の時期に、植花予定地周辺の清掃作業等を実施して、植花に備える。

④飾花活動の実施（４月～）

広報全体計画の「県民のアクションの時期」である４月からサミット開催の５月下旬までの間に、キックオフイベントを開催し、歓迎機運や参加意識の向上を図るとともに、今まで育てた花苗をアレンジし、三重県内を美しく飾る飾花活動を行う。

また、「アフターサミットフラワー」としてサミット開催時等に夏咲花を播種、育成するなどのプログラムも準備し、アフターサミットにつなげていく。

平成 27 年 12 月 15 日

事業推進課

ホームページ・SNSのリニューアル及び運営について

1 目的

現存ホームページ（以下、HP）をリニューアルすることにより、県民会議の取り組む事業、住民に影響を与える事象に関する情報、国内外から来県される方のための情報（宿泊予約案内、アクセス 等）をタイムリーにわかりやすく発信します。

また、既に運用している SNS（Facebook ページ及び Twitter）についても、HP の運営・管理と併せて運用を事業者へ委託することで、より効果的な情報発信や炎上対策等のセキュリティ強化を図ります。

2 事業の概要

HP や SNS を活用することで、県民会議の取組や三重の魅力を幅広く発信していきます。

なお、HP のリニューアル及び HP ・ SNS の維持管理運営については、バナー広告等で賄うことを前提に、受託事業者は業務に係る経費をすべて負担することを条件に、当該 HP における広告収入を経費に充当できる仕組としていきます。

3 取組方針

(1) HP

「国内在住の方」及び「海外からサミット取材に訪れるプレス」を対象に発信していくため、当該 HP は日・英の 2 カ国語対応を基本とします。

- ・ 国内向けには、県民会議の取組、協賛・連携・寄附事業の周知と依頼、各種規制情報、宿泊予約案内、三重県概要等を発信
- ・ 海外プレス向けには、三重県での滞在に関する情報（病院・警察、両替可能場所、宿泊予約案内等）、県民会議の一部の取組等を発信

※コンテンツにあわせ、一部は多言語化を予定

(2) SNS

県内でサミットに関心のある方、サミットを契機に地元を盛り上げる意欲のある方や、県外でサミットに関心のある方、三重にゆかりや関心のある方をファンとして取り込むような発信をします。

4 今後の進め方

伊勢志摩サミット開催 100 日前を目途（2 月中旬）にリニューアルする予定です。

平成 27 年 12 月 15 日

事業推進課

伊勢志摩サミット三重県民会議公式ポスターの展開について

1 目的

三重県で開催される主要国首脳会議の成功に向け、多くの方に伊勢志摩サミットをPRするための第1弾ポスター、県民会議のシンボルマーク決定を告知する第2弾ポスターを制作したが、今後第3弾から第5弾までのポスターを作成することで、サミット開催への期待感と「おもてなし」「明日へつなぐ」「三重の発信」への県民の意識の醸成を図ることを目的とする。

2 ポスターシリーズの基本構成

開催機運と県民意識の醸成を表現するため、「起・承・転・結」の構成とする。

第1弾 「起」：サミットが伊勢志摩で開催されることをPRし、期待感を醸成

第2弾 「承」：県民会議の象徴となるシンボルマーク決定告知

★第3・4弾 「転」：ポスターの公募

第5弾 「結」：「明日へつなぐ」をテーマに、県民のこれまでの活動を振り返りサミット終了が新たなスタートと訴求

3 第3弾ポスターの公募

- ・第3弾ポスターは、より高品質なポスターとするため公募形式とする。
- ・ポスターのテーマを「サミット開催に向けてのおもてなしの心」とする。
「おもてなし」や「歓迎」といった伝わりにくいテーマを人々に訴えかけるポスターとして表現することで、県民の意識啓発を目指す。
- ・印刷や発送費用について、ポスターへの社名広告を前提とした協賛事業者を12月17日（木）まで募集中。
- ・なお、第4弾のポスターデザインについても公募し、12月18日（金）の第3弾ポスターの発表に合わせ募集要項を発表予定

①期 間 平成27年10月14日（水）から11月13日（金）（募集終了）

②応募件数 22件

③選考委員 5名

（座長） 水谷孝次 氏 水谷事務所／MERRY PROJECT 代表・アートディレクター
田端英明 氏 公益社団法人 三重県観光連盟専務理事
江崎貴久 氏 海島遊民くらぶ代表
三田絢子 氏 有限会社伊勢福・広報担当
森本佳菜 氏 三重大学大学院工学研究科建築学専攻博士
前期課程在学中

④選考基準

デザイン性、テーマの表現性、誘客性を選考基準とする

4 第3弾ポスタースケジュール

- | | |
|-----------|---|
| 10月13日(火) | 県民会議総会にて発表 |
| 14日(水) | 募集開始 |
| 11月13日(金) | 募集終了 |
| 11月19日(木) | 第一次審査(～24日までに各委員が推薦作品を報告) |
| 11月26日(木) | 第二次審査(4作品を選定) |
| 11月27日(金) | 著作権等の確認 |
| 12月14日(月) | 第三次審査(選考委員による最優秀賞の決定、会長の承認) |
| 12月18日(金) | 最優秀賞者表彰及び知事記者発表
(第三次審査にて採用とならなかった作品についても
優秀作品として表彰) |
| 1月上旬 | 第3弾ポスターの配布(開催150日前ウィークを想定) |

5 ポスターの活用・展開事項

県民会議関係者、市町、県、県地域機関、希望者(企業・団体・個人)
郵便局、金融機関、商業施設、公共交通機関関係、各種イベントブース等での
掲示を想定

平成 27 年 12 月 15 日
事業推進課

カウントダウンボード、ノベルティを活用したPR展開

1 目的

伊勢志摩サミットに向けて、応援事業も活用しながら県内外の各地にカウントダウンボードを設置することで、歓迎機運の盛り上げを図る。また、伊勢志摩サミットの開催を幅広く周知するため、シンボルマークを活用した各種PRツールを作成し、節目イベントや様々な会議等において、積極的に活用する。

2 取組内容

(1) カウントダウンボードの設置

200日前ウィークにて総計361台設置したカウントダウンボードについて、さらに県外設置を進め、東海地区、首都圏を中心とした全国発信へつなげます。新たに50台を各地に設置し、200日前ウィーク以降に応援事業で設置していただいた106台に加えて、総計517台となる予定。

①県民会議による設置【計5台】

- ・外務省（1台）※三重県森林組合連合会による協賛
- ・鉄道駅構内（近鉄：3台（難波駅、京都駅、名古屋駅））
- ・伊勢市役所（1台）※伊勢市から県立伊勢工業高等学校に製作を依頼

②企業等による応援事業として新たに設置【計45台】

三重交通グループ40台（各バスターミナル出札所等）、中日本高速道路㈱4台（東名阪自動車道御在所SA上下線・伊勢湾岸自動車道長島PA上下線）、㈱津松菱1台を設置いただく予定です。

③開催200日前以降、企業等の応援事業として既に設置【計106台】

㈱第三銀行41台、JAグループ三重61台、三重テレビ放送㈱2台、紀北町観光協会1台、㈱サン・シャイン1台

(2) 各種PRツールの作成

ポストカードサイズチラシ、手提袋、クリアファイル、ウェットティッシュ、風船、ICカードステッカー等の汎用品ツールを作成しました。今後は子どもなどターゲットを明確にしたノベルティも作成して様々な場面に応じて配布できる各種PRツールを作成する。

3 今後の展開

(1) カウントダウンボードの展開

広報全体計画に基づき、県外への展開については、全国的な話題性の向上と興味喚起のため開催150日ウィークに併せて設置に取り組む。開催150日ウィーク以降は、企業等の皆さまの応援事業としてご協力いただき、設置を進めていきたい。

平成 27 年 12 月 15 日
事業推進課

(2) 各種 P R ツールの展開

節目ウィークイベントや関係関係会合、三重テラス等において、各種 P R ツールを用いて幅広く周知を行います。また、集客力及び P R 効果の高いイベントには、県民会議の出展等を通じて情報発信を行う。

プレス等を活用した情報発信の展開について

1 目的

国内外のメディアに三重県を取材する機会を提供し、三重県ならではの体験や三重県の多彩なコンテンツを体感いただき、三重県の魅力を国内外へ発信することで、三重県の認知度を高め、ブランドイメージの確立・浸透をはかるとともに、開催後のインバウンドをはじめとする観光客の増加や県産品の販売増につなげます。

2 取組方針

- (1) 県・市町の関係部局とも連携を図りながら、メディアの発信先や特性に応じてテーマ設定や訪問先などのコンテンツ選定を行い、三重の誇る食、文化・伝統、自然や産業技術等を効果的に発信できるように努めます。
- (2) 県内各地域の情報が国内外に広く発信できるよう、取材エリアの選定を工夫します。
- (3) 県民会議主催の事業だけでなく、外務省等の国関係機関や県の各部局、市町、各種団体等の行うメディア関連の事業に対し、コースやテーマ等の提案・調整を行い、これらの事業トータルで効果的なメディア発信を行う構成とします。
- (4) コースやテーマ設定の際には、多様な暮らしを営む県民（生産者、経営者、子ども、女性、高齢者等）が、できるだけ取材されるよう努めます。

3 事業の概要

単にプレスツアー等を実施するだけでなく、プレスツアーへの参加を呼び掛けるイベントを開催することでプレス等との関係を構築し、より効果的な情報発信に努めます。

(1) プレスツアー、ファムトリップ等

各種プレスツアーやファムトリップ等については、地域性、テーマ性も考慮しつつ県民会議からコース等の積極的な提案を行います。

①県民会議主催プレスツアー（1泊2日）（3回）

②外務省等主催のプレスツアー（8回程度）

③海外メディアやエージェントのファムトリップ（複数回） など

(2) プレスツアーの参加に向けた各種行事

プレスツアーを開催するに当たり、プレス等との関係性を構築しツアーへの参加を呼び掛けるため、11月18日の日本外国特派員協会での知事ブリーフィングなど東京での情報発信を行いました。

4 県民会議主催プレスツアーの選定プロセス

次のプロセスにてプレスツアーの行程を決定していきます。

- (1) 9月に実施した市町からの聞き取りに加え、県民会議が、適宜、シート〔時、委託先と視点調整したもの（例）視点→TPP、高齢者、子育て、環境、技術、防災、ユニークな人等〕を使って市町と情報交換し、直接ヒアリングをしながら様々な情報を集めます。
- (2) 県民会議が市町から収集した情報は委託先（フォーリンプレスセンター）に送付し、県民会議と委託先で複数のテーマを選定します。
- (3) 複数のテーマに基づき該当すると思われる取材候補のさらに詳しい情報を県民会議が市町等から収集します。

在京外国人プレスに注目されるように、関係市町と協議しながら、取材候補のより多くのアピールポイントを整理します。

- (4) 県民会議と委託先で、取材候補を選定し、現地訪問します。
- (5) 委託先との最終調整結果を県民会議が市町と取材候補に連絡し、共有します。このときに出来る限り理由も共有し、今後のインバウンドに生かしていただきます。

5 県民会議主催第1回プレスツアー（資料2-12-1 参照）

(1) タイトル

現代に伝える忍者の文化、特色ある農業ビジネスに挑む経営者たち

(2) 実施時期

平成27年12月7日から8日まで

(3) 取材先

「モクモク手作りファーム」、「伊賀流忍者博物館」、「木の子の里」、「うれし野アグリ」「アグリー農園」

6 今後の進め方

外務省等主催のプレスツアーについては、各部局や市町、関係団体と調整し、県内の行程については、引き続き、県民会議から積極的に提案を行います。また、県民会議主催プレスツアーは外務省他主催のプレスツアー受入れ状況を勘案しながら、三重県全域の発信につながるよう開催地等を調整しながら実施します。

以 上

平成 27 年 12 月 15 日
事業推進課

第 1 回伊勢志摩サミット三重県民会議主催海外プレスツアーの概要について

1. ツアーの概要

伊勢志摩サミット三重県民会議では、公益財団法人フォーリンプレスセンターに委託して、伊賀エリアを中心とした PT を実施したところ、5 カ国のプレス 11 名(中国 4 名、韓国 4 名、ロシア 1 名、米国 1 名、ドイツ 1 名、メディア別では TV 5 名、新聞 5 名、通信社 1 名)に参加いただきました。

2. 日程：2015 年 12 月 7 日(月)、8 日(火)

○モクモク手作りファーム

設立時に大手スーパーをターゲットにし、価格の壁に阻まれたという苦労話や非常を演出する事業戦略を見出すまでの過程の説明を聞いた。記者からは今後の展開や現状の売上・収益について質問を行っていた。TV クルーは体験教室(ウィナー、豚まん)の参加者の様子も撮影していた。

○伊賀流忍者博物館

忍者博物館の歴史を聞いた後、「忍者とは」について三重大学山田教授から講義を受けた。忍術は知識の集合体であるということに興味を示していた。続いて三重大学久松名誉教授から「忍者と食」について講義を受けた。記者から「忍術」はサミットの警備に生かせるのかとの質問があった。

続いて、阿修羅と最後の忍者といわれている川上仁一先生の直弟子の清本氏の実演があり、じっくり見入っていた。

○アグリー農園

一主婦が食の安全・安心を求めて 5 年前に起業した時の苦労話を聞いた後、障がい者との出会いと農福連携のビジネスモデルを作るまでの経緯について説明を受けた。記者は、目の不自由な人が播種作業をする姿を熱心に取材していた。

○木の子の里

高齢者を元気にすることを目的に、試行錯誤でシメジづくりを始めた頃の苦労話や今後の展開について話を聞いた。記者から販売量や販売先や評判について質問があった。菌床を育てている現場では、育成プロセスを熱心に取材していた。

○うれし野アグリ

農業で日本の未来を変えたい 3 社が結集し、ミニトマトでは、国内最大かつ最高効率の生産を行う仕組みについて、熱心に耳を傾けていた。記者からは今後の方針や海外への販売実績や売上について質問があった。現場では、最新鋭の生産システムを熱心に取材していた。

○知事インタビュー

知事からの自己紹介ののち、取材先を踏まえ、6 次産業化や農福連携についての考えについて質問があった。TPP の影響と対策等活発な質問が続いた。

○総括

特に農業は、どの取材訪問先も特色があり、記事を書きたいとコメントを複数人の記者からもらった。また、夕食は抜群においしかったと全員から評価いただいた。

3. 三重の食の発信

○交流会（山水園）（夕食）

伊賀・名張の食材と取材先で訪問先した企業の食材をふんだんに使った伊賀尽くしの料理は、大変好評であった。取材先エリアの物産やポスターも交流会会場に展示され、熱心に見入っていた。

○焼肉レストラン「奥田」（昼食）

伊賀牛の希少部位の焼肉に舌鼓を打っていた。ジューシーな肉にみな大変満足していた。

1 目的

■ねらい

2 事業の概要

(1) 基本コンセプトの方向性

(2) 展示コンテンツの見せ方、伝え方の方向性

(3) 展示コンテンツの選定について

3 コンテンツ選定委員会について

- (1) コンテンツ選定委員会設置要領 ※2頁参照

(2) コンテンツ選定委員 ※3頁参照

(3) 今後のスケジュール(予定)

平成28年1月 ・ 第1回コンテンツ選定委員会
(コンテンツ選定要領、展示カテゴリの決定)

・コンテンツ募集

(県、市町、企業・団体からの募集予定)

平成28年2月 ・ 第2回コンテンツ選定委員会
(選定要領に沿った展示コンテンツの選定)

三重県情報館（仮称）コンテンツ選定委員会設置要領（案）

（目的及び設置）

第1条 伊勢志摩サミットの開催に伴い、国際メディアセンター内に設置する三重県情報館（仮称）において展示するコンテンツを選定するため、三重県民会議部会運営規程第6条に基づき「三重県情報館（仮称）コンテンツ選定委員会」を、（以下「委員会」という。）を設置する。

（委員会の業務）

第2条 委員会は、国内外から来県する多数の報道関係者等を通じて、三重県の宝や誇り、三重県がもつすばらしさを効果的に発信するため、三重県情報館における展示コンテンツの選定基準の作成及びそれに基づくコンテンツの選定に関することを行う。

（委員会の組織等）

第3条 委員会は、別表の者をもって組織する。

2 委員長は、委員の互選とする。

3 第1項の委員への就任依頼は、伊勢志摩サミット三重県民会議会長がこれを行うものとする。

（委員長の職務）

第4条 委員長は、会務を総理し、議長としての委員会の議事を運営する。

（守秘義務等）

第5条 委員は職務上知り得た秘密をもらしてはならない。その職を退いた後も、同様とする。

（委員会の開催及び議決）

第6条 委員会は、委員長が必要に応じて召集する。

2 委員会は、委員の出席が過半数を超えない場合は、成立しないものとする。

3 委員会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは委員長の決するところによる。

4 委員会は必要に応じ委員以外の者を会議に参加させ、その意見を求めることができるものとする。

（事務局）

第7条 委員会の庶務を処理するため、事務局を伊勢志摩サミット三重県民会議事務局に設置する。

（補則）

第8条 この要領に定めるもののほか、必要な事項は別に定める。

附則

この要領は、平成27年12月15日から施行する。

【別表】

（五十音順）

委員長		（互選）	
1	委員		
2	委員		
3	委員		
4	委員		
5	委員		
6	委員		

三重県情報館(仮称)コンテンツ選定委員一覧(案)

(五十音順)

氏名	所属・役職	略歴
いこま よしこ 生駒 芳子	FUTURADITION WAO (フュートゥラディションワオ) プロデューサー	ファッションジャーナリスト／アートプロデューサー。『VOGUE』『ELLE』での副編集長を経て、2004年より『マリ・クレール日本版』編集長に就任。2008年11月独立後は、ファッション、アート、ライフスタイルをテーマの核として、社会貢献、エシカル、社会起業、女性の生き方についてのプロジェクトを立ち上げ、雑誌や新聞への執筆にかかわる。クール・ジャパン官民連携プラットフォーム構成員、産業構造審議会委員、公益財団法人三宅一生デザイン文化財団理事、NPO「サービスグラント」理事などを歴任
おおかわ よしたか 大川 吉崇	学校法人大川学園理事長	三重県津市出身。三重高等学校教諭から大川学園に移籍、現在、学校法人大川学園理事長。 大正から昭和初期の食生活について聞き取り調査をまとめた著書「三重県の食生活と食文化」や大台ヶ原山に息づく日本の文化の原風景を明らかにした著書「大台ヶ原山 知られざる謎」を執筆するなど三重の食文化や自然に豊富な知見を有する。全国調理師養成施設協会参与、三重県私立幼稚園協会常任相談役。三重ブランド認定委員、三重のバイオリジェーター選定委員を歴任。
さか みゆき 坂 美幸	月兎舎 季刊「NAGI」編集長	三重県伊勢市出身。伊勢市内の老舗和菓子店に勤務後、地元情報誌を発行する「伊勢文化舎」に入社し8年間編集員として活躍。現在、月兎舎季刊「NAGI」の編集長、三重県内の住まい、町並み、里山等について「モノ」でなく「ヒト」に焦点を合わせた特集を多数企画している。また、伝統産業・地場産業新たな魅力創出事業費補助金予備審査会委員(三重県)、みえセレクション採点者、三重県主催のシンポジウムでパネリストとして活躍。
たなか りさ 田中 里沙	株式会社宣伝会議 取締役副社長兼編集室長	三重県津市出身。広告会社を経て1993年に宣伝会議入社。1995年から広告専門誌「宣伝会議」の編集長を務め、2007年から編集室長。企業の広報宣伝戦略やマーケティングトレンド分析を手がけ、行政や企業の広報宣伝のあり方をアドバイスしている。伊勢志摩サミットロゴマーク選定委員、東京2020大会エンブレム選定委員、三重県経営戦略会議委員、国土交通省社会資本整備審議会委員、中央環境審議会委員、日本郵便社外取締役などを歴任。

にしむら 西村	のりひろ 訓弘	三重大学副学長	三重県南伊勢町（旧南島町）出身。民間研究所、米国企業、大手外資系製薬企業の研究員などを経て、遺伝子解析技術の研究・開発に携わり、大学発バイオベンチャー企業の立ち上げに寄与。同ベンチャー企業の代表取締役社長を経た後、三重大学医学部特命教授、同大学大学院医学系研究科教授、2013年から現職。 三重県経営戦略会議委員、みえ産業振興戦略アドバイザーボード委員を歴任。
まるかわ 丸川	たつや 竜也	株式会社イストグラフ代表	三重県松阪市出身。独学でデザインを学び、2000年にデザイン事務所（株式会社イストグラフ）を設立。2008年にオリジナルブランド「丸川商店」を立ち上げ、主に、松阪市の伝統工芸品「松阪木綿」及び玉城町の伝統工芸「擬革紙」などの再興事業に注力し、現在、国内60社・海外4社にて販売中（平成2015年1月現在）。以降、三重県の様々な文化や食のデザインに取り組んでいる。 三重県産業功労者表彰の審査委員を歴任。

平成 27 年 12 月 15 日

事業推進課

三重県情報誌及びプレス用ハンドブックの作成について

1 目的

伊勢志摩サミット開催に向けて、国内外報道関係者および G 7 各国代表団等に、三重県の情報等を提供することで、三重県への理解を深めていただくとともにサミット開催に対する報道活動をサポートする地域情報も提供し、記事等を通じた内外への情報発信を促進します。

2 事業の概要

(1) プロローグ版三重県情報誌の発行

「伝統と革新」を兼ね備えた三重県が誇る歴史、文化、伝統、食、先端技術を「三重県人」にフォーカスして紹介するプロローグ版三重県情報誌「CLOSE UP MIE」を発行し、飯倉公館で開催された「伊勢志摩サミット開催レセプション～三重へのいざない～」で各国大使館員、外国人報道機関関係者に既存のパンフレット等とファイルにセットして配布しました。

(2) 三重県情報誌の発行

三重県を愛する方々のインタビューを通じて、「伝統と革新」を兼ね備えた三重県を感じてもらうための三重県情報誌を作成し、プレスツアー等の機会を活用して国内外報道関係者等に配布することで、三重県への理解を深めていただくとともに、国内外のメディアに取材や記事化等のツールとして活用できるようにしていきます。

(3) プレス用ハンドブックの発行

県内マップ、交通案内、食事、観光、お土産情報など、サミット開催期と開催後に国内外報道関係者等の県内移動、滞在、取材活動、県内観光をスムーズに行える情報を掲載し、記者等の取材をサポートします。

3 今後の進め方について

- ・関係部局等と連携し、効果的な掲載内容の選定を行っていきます。
- ・メディアの種類や国にあわせて、ターゲットに最も効果的なプレスキットとなるように準備していきます。
- ・伊勢志摩サミット三重県民会議のホームページに情報誌の内容を掲載することで、県外や海外に向けて発信します。
- ・プレス用ハンドブックの制作にあたっては、市町と連携してより詳細な情報を掲載していきます。

多様な主体における国際理解・国際交流事業について

1 目的

伊勢志摩サミットの開催を契機として、サミット参加国について学ぶ機会を設け、学校や市町、民間企業・団体等、多様な主体が、国際理解・国際交流を深める機会を提供します。特に次代を担う子どもたちが多文化を理解し、国際的な視野や感覚を身に付けるきっかけとなることをめざします。

2 事業の概要

(1) 国際理解・国際交流プログラム

県民の皆様に、サミット参加国について理解や交流を深めていただくため、園、学校、市町、企業、団体等、多様な主体が行う授業や講座等に、サミット参加国出身の在住外国人や留学生など、サミット参加国に詳しい方々を講師として派遣し、「国際理解・国際交流プログラム」を実施しています。

(2) 外務省事業「イチからわかる！サミット塾」の支援

外務省において実施する「イチからわかる！サミット塾」では、外務省の若手職員が講師となり、サミットや外交についてわかりやすい授業を、小・中・高等学校で、各 5 校程度ずつ実施します。県民会議では、当事業の取りまとめなど支援を行っています。

＊実施期間 平成 2 7 年 1 2 月上旬～平成 2 8 年 3 月下旬

(3) パネル展示等による参加国紹介

サミット及びサミット参加国紹介、過去に開催されたサミットの年表、過去に日本で開催されたサミット当時の世相を紹介するパネルを作成しました。平成 2 7 年 9 月 5 日の第 1 回伊勢志摩サミットフォーラム以降、イベント等で展示しています。

(4) イベントへの出展

平成 2 7 年 1 1 月 1 4 日～1 5 日、紀北町東長島スポーツ公園で開催された「第 1 0 回子育て応援！わくわくフェスタ」にブース出展し、伊勢志摩サミットの P R やサミット参加国の紹介を行いました。特に、子どもを対象として、子ども向けパネルの展示に加えて、サミット参加国等の国旗を利用したパズルや折鶴、手作りカウントダウンボードの作成など、楽しみながら理解を深めていただく取組を展開し、出来上がったカウントダウンボードを道の駅「紀伊長島マンボウ」に設置しました。

3 取組方針

(1) 学校や市町、民間企業・団体等、多様な主体による取組が実施されるよう働きかけを行い、一人でも多くの県民がサミット参加国や多文化に関心を持てるよう、全県的な取組とします。

(2) 取組情報等を報道に資料提供することで、パブリシティによる情報発信を行うとともに、取組への士気を高めます。

平成 27 年 12 月 15 日

事業推進課

- (3) 当事業を通じた取組を生かし、サミット終了後も継続する国際理解・国際交流事業の展開につなげていきます。

4 「国際理解・国際交流プログラム」申込及び実施状況

○申込状況（平成 27 年 12 月 10 日（木）現在）

（延べ回数）

	北勢	中南勢	伊賀	伊勢志摩	東紀州	計
幼稚園・保育所	19	10	2	23	0	54
小学校	34	13	4	17	1	69
中学校	2	2	0	9	0	13
高等学校	2	0	3	3	0	8
特別支援学校	6	1	0	0	0	7
一般	4	1	2	3	0	10
計	67	27	11	55	1	161

○実施状況（平成 27 年 12 月 10 日（木）現在）

合計：11回

※第1回実施 平成 27 年 11 月 30 日（月）13時20分～14時10分

（公開） 三重県立鳥羽高等学校3年生10名

プログラム：「参加国の生活を知ろう」（イタリア）

5 「イチからわかる！サミット塾」申込及び実施状況

○申込状況（平成 27 年 11 月 30 日（月）申込終了）

（回数）

	北勢	中南勢	伊賀	伊勢志摩	東紀州	計
小学校	7	1	3	8	0	19
中学校	3	0	0	3	1	7
高等学校	2	1	1	1	0	5
計	12	2	4	12	1	31

○実施状況（平成 27 年 12 月 10 日（木）現在）

合計：3回

※第1回実施 平成 27 年 12 月 7 日（月）14時55分～15時45分

（公開） 三重県立上野高等学校1、2年生558名

6 今後の進め方

学校や市町、民間企業・団体等と連携し、「国際理解・国際交流プログラム」及び「イチからわかる！サミット塾」の事業を推進するとともに、上記「2（3）」の参加国紹介のパネルを行政機関や民間企業等に貸出し展示していただくことで、全県的な国際理解・国際交流につなげ、おもてなし機運の醸成につなげていきます。

平成 27 年 12 月 15 日

開催支援課

インフォメーション機能の整備について

1 目的

伊勢志摩サミットの開催に際して、移動・滞在・観光等のインフォメーション機能を充実させることで、世界各国からの来県者（主に報道関係者）をおもてなしの心で迎え支援を行うとともに、各地域の情報発信などを行う。

2 取組内容

(1) インフォメーションセンター設置場所と活動内容

① 主要拠点（運営主体：三重県民会議）

- ・国際メディアセンター内
- ・滞在期間中の活動支援全般と三重県の情報発信

② 県内主要ターミナル（運営主体：各所在地の市町・団体等）

- ・JR 津駅、なぎさまち旅客ターミナル、JR 松阪駅、JR 伊勢市駅
近鉄宇治山田駅、近鉄鳥羽駅、近鉄鵜方駅等、メディア関係者が宿泊・取材等で利用する可能性の高い施設
- ・宿泊先・国際メディアセンター等への移動支援と現地観光案内

③ 三重県外（運営主体：伊勢志摩サミット東海会議）

- ・中部国際空港、名古屋駅等
- ・現地への移動支援（名鉄・JR・近鉄間の乗換案内等）と三重県及び中部地域の情報発信

(2) 運営スタッフ（上記①②③は次の通り）

① 県民会議スタッフ、業務委託先スタッフ、外国語案内ボランティア

② 運営主体のスタッフと外国語案内ボランティア

③ 運営主体のスタッフと県民会議スタッフ

※センターを設置しない市町の観光案内所スタッフ等も実践研修の場として参加可能とする。

3 取組方針

(1) 三重県及びサミット関連の情報発信資料は各拠点で共通に使用できるものを県民会議で用意する。各拠点ごとの独自の資料、サービス内容は各運営主体が企画・手配する。

(2) 三重県内の拠点で必要となる外国語案内ボランティアは、県民会議が一括して募集し、各拠点に派遣する。

(3) インフォメーションセンタースタッフとして全拠点に共通して必要なサミット関連の知識や接遇方法等については、外国語案内ボランティア以外のスタッフについても合同で研修を行う。また主に外国人を対象とした接遇用ハンドブックを制作し広く活用する。

4 今後のスケジュール

平成 27 年 9 月 ～ 12 月 各運営主体との設置に係る調整

平成 28 年 2 月 ～ 4 月 ボランティア、スタッフ研修

平成 28 年 5 月 20 日（金）～ 28 日（土） インフォメーション設置

平成 27 年 12 月 15 日
開催支援課

外国語案内ボランティアについて

1 目的

伊勢志摩サミットの開催に際して、国際メディアセンターや県内主要駅等に設置するインフォメーションセンター等において、主に外国人報道関係者に対し、円滑な取材・報道活動を行っていただくため、外国語による交通や観光の案内、三重県の情報発信等の支援を行う。

2 取組内容

(1) 募集

外国語（主に英語）による案内業務が可能なボランティアを公募しました。

募集対象：県内外の一般、大学生、外国人留学生及び高校生等

（平成 28 年 4 月 1 日現在で 15 歳以上の方）

募集期間：平成 27 年 10 月 30 日～12 月 10 日

募集人数：200 人程度

応募者数：1003 人

(2) 研修

ボランティア参加者は、語学研修及び接遇研修の受講を必須とし、今後の活動を見据えたレベルアップを図ります。

(3) 活動

県内に設置されるインフォメーションセンター等において、移動・滞在・観光等の情報提供を通じて主に外国人報道関係者を支援します。

3 取組方針

(1) 募集、研修及びコーディネート業務を企画提案コンペにより外部委託する。

【委託先】公益財団法人三重県国際交流財団

(2) 募集にあたり、県内の語学ボランティア団体等とも連携・協力を図る。

(3) 幅広い県民参加の機会となるよう選考を行う。

(4) ボランティア参加者が、以後、県内で開催される MICE、外国人観光客のおもてなし及び各種ボランティアにおいて引き続き活動できる仕組みづくりに取り組む。

(5) インフォメーションセンター以外のサミット関連事業での外国語ボランティア派遣の要望についても対応することを検討する。

(6) 個人での応募以外に、企業単位での協力申請がある場合は別途対応する。

4 今後のスケジュール（予定）

平成 27 年 10 月 30 日～12 月 10 日	ボランティア募集
12 月～平成 28 年 1 月	ボランティア選考・通知
平成 28 年 2 月～4 月	ボランティア研修（語学、接遇）
4 月～5 月	ボランティア結団式
5 月 20 日～28 日	インフォメーションセンターでの活動
6 月	ボランティア解散式

平成 27 年 12 月 15 日

開催支援課

第 1 回住民懇話会の実施結果について

1 開催結果

地区	伊勢市	鳥羽市	志摩市	南伊勢町
日付	12月10日(木)	11月28日(土)	11月28日(土)	11月20日(金)
時間	19:00~20:00	11:00~12:00	15:00~16:00	19:00~20:00
場所	ハートプラザみその多目的ホール	鳥羽市民文化会館 大会議室	志摩市役所 4 階会議室	南伊勢町役場 南勢庁舎 3 階大会議室
対象	伊勢市内全自治会長 (全175自治会)	鳥羽市内全自治会長 (全47自治会)	志摩市内全自治会長 (全49自治会)	南伊勢町内全区長 (全38区)
参加	85自治会(49%)	36自治会(76%)	38自治会(77%)	32区(84%)

2 内容

(1) 三重県雇用経済部伊勢志摩サミット推進局

伊勢志摩サミットの概要及び伊勢志摩サミット推進局（伊勢志摩サミット三重県民会議）の事業取組について説明を行った。



(2) 三重県警察

現在、警備計画を策定中であり、早い段階で住民への情報提供をしていきたい旨説明があった。

また、不審者（物）を発見したら警察へ通報いただきたい旨協力依頼があった。

(3) 第四管区海上保安本部

英虞湾を中心に海域の利用状況を調査中であり、今後、地域の実情に応じた適切な警備方針、警備計画を立てていきたい旨説明があった。

(4) その他（4市町から）

市町の取組についての説明及び自治会に対して取組への協力依頼があった。

3 質疑応答

主に住民生活への影響を心配する質問と住民への情報提供について意見が出された。具体的には、警備や交通規制による通勤通学、離島航路への影響、真珠・のり養殖業等への影響を心配する質問、今後の住民懇話会の開催方法の要望、行政広報紙などでのきめ細かい情報提供を要望する意見が出された。

4 今後の方針

第 1 回の住民懇話会の結果を踏まえ、平成28年 2 月頃に第 2 回、平成28年 4 月下旬から 5 月上旬にかけて第 3 回を実施する予定である。

平成 27 年 12 月 15 日

開催支援課

各国首脳等と県民との交流について
～「世界との絆づくり」～

1 目的

来県される各国首脳等や配偶者による市町等訪問、地域住民との交流を通じて、地域の国際化や情報発信、学生や子ども達のサミットへの参加意識を高め、各国と地域の一層の関係強化につなげていく。

2 取組方針

(1) サミット参加各国等と県内市町及び県内高等教育機関とのつながり

県内市町及び県内高等教育機関（以下、「県内市町等」。）とサミット参加各国等とのこれまでのつながりや、未来に向けた関係強化の動きを生かした交流を実施する。

(2) 一層の関係強化、地域の伝統文化、特産品の発信

交流にあたっては、サミット参加各国等の歓迎等に加え、県内市町等とサミット参加各国等の一層の関係強化につながる内容とし、かつ、機会を捉えた地域の伝統文化、特産品の発信を実施する。

(3) 県と県内市町等との連携

交流プログラムの立案、調整、実施に際しては、県及び県民会議と県内市町等で連携して実施する。

3 事業の概要

伊勢志摩サミット開催前後に、各国首脳等や配偶者が県内市町等を訪問し、姉妹都市関係、大学間協定をはじめとする歴史、文化、教育、産業などのつながりを踏まえた、記念事業、伝統文化の紹介などの交流プログラムを実施する。

4 今後の進め方

各国首脳等や配偶者と県民との交流実現に向け、交流プログラム案を基に各国に対し働きかけを行っていく。

なお、交流プログラム案について、セキュリティ等の観点から内容等は非公表として進める。

